

平成 26 年度京都大学図書館機構講演会

「大学図書館における自学自修施設の整備と今後の活用～ラーニングコモンズの評価と活用の方策～」アンケート結果

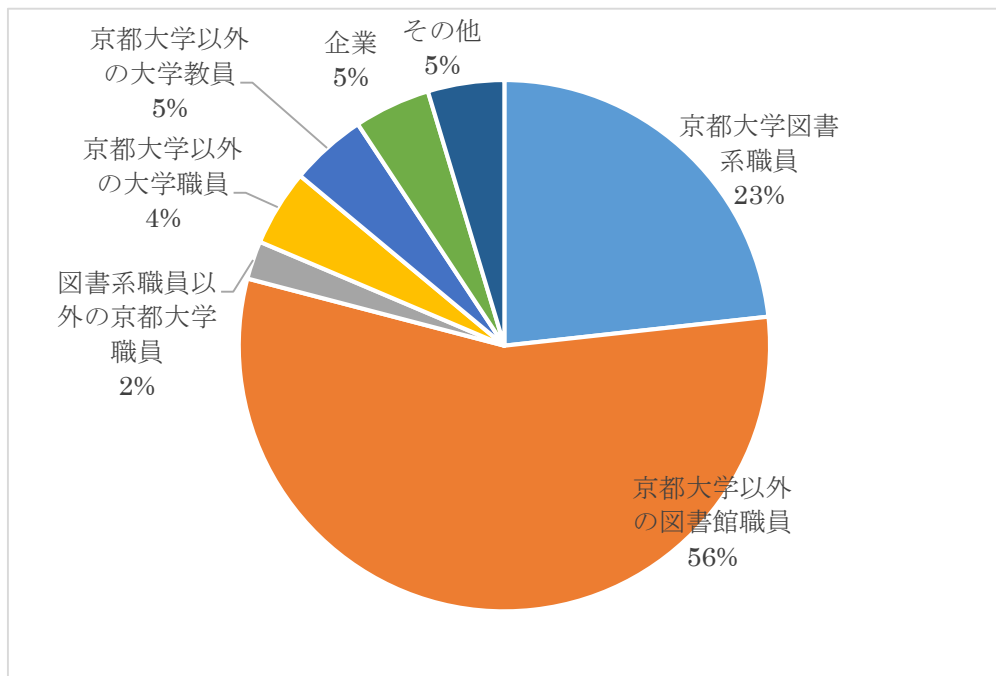
実施日時：平成 26 年 12 月 11 日（木）13:10～17:00

参加者数：62 名（内訳：学内 28 名／学外 34 名（当日受付 1 名(卒業生)を含む)）

回答数：43 名（回答率：69%）

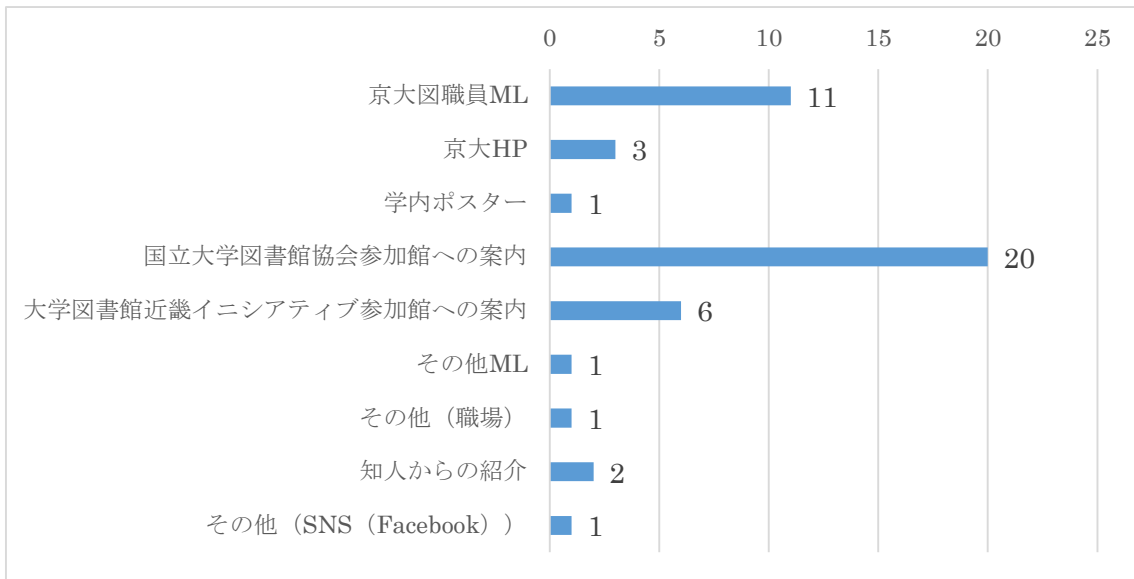
1. 参加者の所属

京都大学図書系職員	10	京都大学以外の大学教員	2
京都大学以外の図書館職員	24	企業	2
図書系職員以外の京都大学職員	1	その他	2
京都大学以外の大学職員	2	合計	43



2. 本講演会を知った情報源（複数回答可）

京都大学図書館職員メーリングリスト (Staff-ML)	11
京都大学ホームページ	3
学内掲示 (ポスター)	1
国立大学図書館協会参加館への案内	20
大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	6
その他各種メーリングリスト (大学コンソーシアム京都「教まちや」メルマガ)	1
その他 (職場)	1
知人からの紹介	2
その他 (SNS (Facebook))	1
合計	46



○所属別に見た情報源の違い

(%)

1-京都大学図書系職員	a)京都大学図書館職員メーリングリスト(Staff-ML)	100
2-京都大学以外の図書館職員	a)京都大学図書館職員メーリングリスト(Staff-ML)	4
	c)京都大学ホームページ	4
	e)国立大学図書館協会参加館への案内	65
	f)大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	19
	h)その他(職場)	4
	i)その他(SNS(Facebook))	4
3-図書系職員以外の京都大学職員	h)知人からの紹介	100
4-京都大学以外の大学職員	e)国立大学図書館協会参加館への案内	50
	f)大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	50
5-京都大学以外の大学教員	e)国立大学図書館協会参加館への案内	100
6-企業	g)その他各種メーリングリスト	50
	h)知人からの紹介	50
7-その他	c)京都大学ホームページ	67
	d)学内掲示(ポスター)	33

- ・ 京都大学図書系職員は 100%が図書館職員メーリングリスト(Staff-ML)による。
- ・ 京都大学以外の図書館職員の多く(65%)は、国大図協の案内による。
- ・ 相対的にメーリングリストによる案内が効果的のようだ。

3. 講演内容についてのご意見・ご感想

1) 事例報告 1:「京都大学附属図書館ラーニング・コモンズ設置における学内協働」(元木 環助教)

新しい空間をデザインするにあたって、コンセプト等をどう検討したらよいか、また学内の教職員と学生がどのように協働されたか具体的なお話が伺えてよかったです。みなさんが常に「確認」「共有」しながらプロジェクトを進められた点が印象的でした。
学内の他部局とどう協働されたのか聞いて良かったです。
簡潔にまとめてご報告いただきました。もう少し課題・苦労した点など詳しく聞きたかったです。
京都大学に所属しているながら、ラーニングコモンズ設置の経緯についてはほとんど知らなかったので参考になった。できれば資料があればよかった。(後日の参考にしたいので)
デザインという観点からのお話が聞いて、とても興味深かった。
ラーニングコモンズ設置について学内でどのような共同が行われたかを細かく知れて参考になりました。
良く理解できた
不規則発言が途中であって、お気の毒でした。
難しくよく分からなかった
[事例報告 1 と事例報告 2 を指して]お話がつながっていて、立体的に理解できてよい構成と思いました。
「ラーニング・コモンズ」を学生の意見も取り入れて作った点がよかった。
アクティブラーニングの具体化のためには図書館内にとどまらず”連携”を図ることの大切さが分かりました。
学生・教育担当教員・建築担当教員など様々なメンバーで共に作り上げていく形が理想的だと感じました。
企画段階の事について知ることができて良かった。興味深い内容であった。
京大のラーニングコモンズがどのようなコンセプトで、どのようにできたのかが分かって、とてもためになった。図書館だけでなく、多くの方の意見を取り入れてつくられていることが分かった。
協働で LC をデザインするプロセスの詳細を聴けて大変興味深かったです。
具体的なプロセスをお話いただき、大変勉強になりました。
コンセプトの先鋭化と共有が大切と分かっている、なかなか時間をかけられないステップと思いますので、そこをうまく協働されているのが印象的でした。
設置にあたって、構想段階から根幹部分を図書館職員だけでなく、学生・教員・研究者様々な人と共同されているということがすばらしい！と思いました。
設置までの活動がよく分かった。
設置までの具体的なプロセスがよく分かりました。
全学の構成員による協働についてのお話は興味深かったです。
立場の異なるメンバーで一つのデザインを作るために各自のイメージを具体化すること、常に共有を意識する手法の大切さを感じました。
どのようにして設置が決まったか、参考になる部分も多かったです。
モノ・コトのデザインができるまでの過程の概観を簡潔に理解することができた。「こうなって欲しくないこと」をも事前に考えておくべきである、との視点は盲点であったので面白かった。
予算の問題があり、じっくりデザインをしてから設置するのが難しい状況です。しかし、図書館員だけでは限界もあるし、学内の理解を得にくいので協働していくべきだと思いました。
具体的な協働の流れやポイントを聞いて興味深かった。レジメは手元に欲しかった。
さしつかえない範囲でレジメを配付してほしかったです
今の施設ができるまでの京都らしい協働の形が面白かった
学生からの意見をラーニングコモンズが始まる前に取り入れること、意見交換を図ることが一つ重要と思った。
私事ですが、学生として設計段階でコメントさせていただいたので、その背景が伺えてよかったです。

スクリーンで映す資料があるなら、プリントして説明をしてほしかった。小さい文字は見にくいではないですか！！時間が決められているのでその時間内にもう少し時間を守る講演をしてほしい。

2) 事例報告 2 : 「京都大学附属図書館ラーニング・コモンズにおける学習支援活動および学習サポートデスクの利用状況」(赤澤久弥 課長補佐)

最後の学生へのインタビューが興味深かったです。
サポートデスクの質問事例やラーニングコモンズの利用者のインタビューなど、学生さんたちの生の声から具体的な利用状況が伺えてよかったです。今後もインタビュー等何かしらの調査を継続的に行うことが実態把握や評価につながると思いますし、現在の課題を解決する糸口にもなるのではないかと思います。
実際にどういう風に使われているのかがよく分かった
上記と同様にラーニングコモンズの現状を知ることができ、参考になった。
良く理解できた
ラーコモの現状を聞いてよかったです。
ラーニングコモンズ設置の経緯について伺えてよかったです。
ラーニングコモンズを使った学生の反応や、今後の図書館の課題など興味深かったです。
[事例報告 1 と事例報告 2 を指して]お話が繋がっていて、立体的に理解できてよい構成と思いました。
学修サポータと LC のそれぞれについて、具体的な紹介と論点の提示があり、今日で終わりではなく、継続的にディスカッションと実践をしていきたいと思いました。
可視化の重要性及び、ラーニング・コモンズに内包されている少なくない問題・課題について再認識させられた。
京大の LC の様子が分かってよかったです。
現在の状況がよく分かり、自分の大学での運営にも役立つと思います。
サポートデスクの運用体制がよく分かりました。
サポートデスクの状況が分かりやすく説明され、理解しやすかった。
自館のこととひきつけて考えることができ、「いいなあ」と思うことも多数。
実際の運用について具体的なお話が聞いて大変参考になりました
実例を交えつつ具体的な話が聞いて良かった。
人的支援のお話が興味深かったです。
設置後、利用率を伸ばすための仕掛けや、取組み、利用分析などが興味深かったです。
短期間でコンセプトを明確にして、ラーニングコモンズをオープンされたことに大変驚きました。
当館にも TA はいますが、TA 間のコミュニケーションが薄いので参考にさせていただきます。
日常的な利用状況の報告がとても分かりやすかった。
本学はサポートデスク未導入のため、事例の中で、現状や課題など参考になりました。
明確で分かりやすかったです
役に立ちました
ラーニングコモンズの活用や学修サポータについて当館はまだまだなので大変参考になった。
利用者インタビューの具体的な話が印象強い
黄色のマーカーの使い方上手さ。
現状の利用状況からサポートデスクの採用に至るまで、仕組みの説明が明確でした。

学習サポートデスクの利用状況をみると、参考調査カウンターとの住み分けがされているかのように感じました。
説明でも小さなグラフの場合どこが何%とよく分かる。又、説明場所がよく分かる。それはスクリーンのプリントがあるからだ。大変良かった。

3) 講演 1 : 「本を媒介としたサービスのデザイン : 理論と実践」(山内 裕 講師)

「サービス」について、新たな視点に触れることができ、考えさせられた。
「本を媒介とした」というのが全然わからなかったが(映像が出なかったようで残念)「サービス」というものが奥深いものなのだということが分かったような気がする。
今まではこのような「サービス」の考え方、捉え方があるとは存じず、驚きの連続でした。サービスがいかに複雑で単純なものではないという前半のお話も大変興味深かったです。もう少しモスカフェの本棚サービスについても詳しくお聞きしたかったです。
サービスと違った目線から考える、いい機会になりました。
サービスについて検討する契機となった。
サービスは高級になるほどサービスが低下していく、というテーゼと、図書館のサービスと、どう整合していくのかを自分なりに考えるきっかけになりました。
図書館とあまり関係がなかったのですが、面白かったです。
響きました。今度、図書館サービスについても考えていただきたいです。
ユニークな内容であったと思う⇒人を幸せにするためのデザイン??
「サービス」についてあらためて考えさせられました!! 大変すばらしい講演で、もっと聞きたかったです!
「サービス」のことはよく分かりました。見方を変えることが重要な事も再認識しました。モスカフェライアルのことをもっと画像で見てみたかったです。
「闘い」の概念が新鮮でした。
新たな視点を提案いただきまして新鮮でした
営利サービスと非営利サービスでは少し異なるような気がします。
おもてなしのイメージが少し変わった。違った視点があることを知りました。
過激とおっしゃっていましたが、非常に面白かったです。理論をしっかりと聞きする機会は少ないので勉強になりました。
顧客の求めることを何も考えずに提供していくのは問題だと感じました。サービスの本質について考えるきっかけになりました。
固定概念の破壊というのでしょうか。感心感銘を受けることができました。
サービスに関する研究の部分は興味深く、目からウロコでした。サービスについていろいろとモヤモヤしていたところがクリアになった。
サービスに関する視点が興味深かった
サービスについてのお話、とても面白く聞かせていただきました
サービスの本質について、改めて、考え直すことができた。図書館サービスについても改めて一つ一つ考えてみたい。
サービスの本質について思いもよらないお話を聞き、自らの考えていたものが崩れていく思いがしましたが、参考になりました。
サービスの理想を覆す内容で面白かったです。

サービスは、分かりやすさが必要だと思っていたので衝撃でした。ただ、本学でもラーニングcommonsは、掲示が少なくても複数人で活発に話し合う姿がよくみられるようになってきていると思えました。
サービスやホスピタリティの本質と二面性を知ることができ、多面的にサービスを見る視点を与えていただきました。
日頃とは異なる思考に触れて新鮮だった。レジメは手元に欲しかった。
非常に興味深かった。寿司のみならず、ソバ、ラーメン、最もは牛丼も(?)、自称通人のようなものが現れると、安いジャンクフードも敷居が高くなる傾向にあるのか。粋のサービスはしかし人を選ぶので、場を間違えないようにするのが難しい。
非常に刺激的で面白い内容でした。
目からウロコ、でした
おもしろかったです。サービスの矛盾した側面。図書館の「しきい」について考えていたことに一つの答えをいただきました。
話としては面白いところがあったが今回のテーマとの関係が分からない
大いに楽しみました。
サービスの概念を考え直すきっかけとなりました。
ヴェブレンの「有閑階級の理論」等に即した理論には感銘を受けましたが、もう少し本(図書館)に即したことも触れていただきたかったです。
スクリーンに映す資料があるならコピーしてほしかった。その方が文字が小さい場合見やすい。

4) 講演2:「公共のサービスを評価する」(前川 佳一 特定准教授)

- ・ 楽しみにしていたので残念でした。
- ・ 残念でした

5) パネルディスカッション

いろいろ触発されるお話が多かったです。
たくさんの方のご意見が聞けて勉強になりました。
評価の難しさを再認識するとともに、だからこそ学内の教職員や大学の図書館間で連携や情報共有、議論を行いながらどのような指標が良いか、検討を進めることが重要だと感じました。
疑問点が解消できました。
様々な意見が聞けて良かったと思います。
大変興味深かったです。
評価はとても難しいですが、サービスをやりっぱなしにするのは問題であるし、もったいないと感じます。
評価をどうするかということを考えられていなかったもので、きちんと向き合って考えていきたいと思いました。
モデル化するか、ラーニングcommonsが成熟してそれぞれの大学の特色を作っていくのではという点で考えさせられました。
そもそも、何を以てアクティブラーニングとするか。何を以て学習活動支援の成功とするかの概念すらあやふやの状態、評価の基準を決定することはかなり困難だろうと感じる。概念の共有から一步一步やっていくしかないのか
評価指標を作ることは非常に難しいと思います。個々の大学での調査と結果が多様であればあるほどラーニングcommonsが成熟していくのではないかと思います。

評価の標準化はあまりピンとこないのが正直なところです。
難しい話題設定でしたが面白かったです。
ラーニングコモンズの実例に対する「評価」は様々あると思います。
事前に「評価」を設計するという観点ははっとした感覚を受けました。

4. 本日の各講演の内容で「最も印象に残った一言」をご記入下さい

1) 事例報告 1 : 「京都大学附属図書館ラーニング・コモンズ設置における学内協働」(元木 環助教)

京都大学図書系職員	1 件	学生を中心に。教員や職員は仕掛け人。学年や分野を超えて構成すること。
	1	具体性
	1	コンテキスト、リソース、コンセプトの共有
	1	抽象的なコトバではなく、具体的な表れとして共有。
京都大学以外の図書館職員	1	「起きてほしくないこと」のイメージ
	1	学内協働
	1	共通認識を作る大切さ
	1	協働する→顕在化！！
	1	コトのデザイン
	1	抽象的な意見を具体化
	2	ネガティブな事や問題点も背景とともに共有
	1	柱の存在を逆手にとる
	1	ラーニングコモンズで起きてほしくないことのイメージ
	1	リソース、コンテキストの共有
企業	1	コンセプトの先鋭化
その他	1	コンセプト・コンテキストを共有して議論する
	1	コンテンツ

2) 事例報告 2 : 「京都大学附属図書館ラーニング・コモンズにおける学習支援活動および学習サポートデスクの利用状況」(赤澤久弥 課長補佐)

京都大学図書系職員	1 件	(図書館にとっての意義だけでなく) 学習サポートデスクスタッフ学生にとっての意義(も考えなければならない)
	1	新しいユーザーを取り入れる
	1	可視性
	1	場のオーラ
	1	ラーニングコモンズが図書館にあると勉強しようと思う。図書館にある意味がある。
京都大学以外の図書館職員	1	利用者の意見「しゃべれてホワイトボードと電源があったら図書館でなくてもいいかもしれないが図書館だと勉強しようという気になる」
	1	『「電源」「プロジェクタ」欲しい』→実はある
	1	スタッフ学生にも学びがなければならない
	1	大学院生スタッフの視点の活用
	1	時計台の前にあるクスノキのように木の下に人が集まるイメージ
	1	図書館機能との接続性
	1	ラーニングコモンズが図書館にある意義、「本」のオーラ、利用者間の関係性
	1	ラーニングコモンズが図書館にある意義はあるのか

	1	ラーニングコモンズが図書館にあることの意味
	1	若手研究者によるレクチャー(別の大学の教員も)
京都大学以外の大学職員	1	図書館に LC がある意義 学生の声 図書館にあると勉強する気になる。
その他	1	ラーニング・コモンズ

3) 講演 1 : 「本を媒介としたサービスのデザイン : 理論と実践」(山内 裕 講師)

京都大学図書系職員	1 件	逆転
	5	サービスとは闘い
	1	サービスは客にとっての非日常を作る。客の日常を否定すること。
	1	人は人に承認されたい
京都大学以外の図書館職員	1	「それぞれがどういう人かが問題になる」サービスによる。新しい社会モデルの提示
	1	Service is a struggle.
	1	外部のものを最大限歓迎する=暗に力を顕示←サービスの素
	1	客のニーズに応えるだけがサービスではない。
	1	客を満足させるには客を満足させるようなサービスではいけない
	10	サービスとは闘い
	3	サービスは高級なほどサービスは減っていく
図書系職員以外の京都大学職員	1	ホスピタリティとは敵意あるものに対して力を持つこと
	1	職人が自分のために仕事していると思うと満足できる
京都大学以外の大学教員	1	サービスは洗練された文化を作る
その他	1	サービスとは闘い
	1	パフォーマンス

4) パネルディスカッション

京都大学図書系職員	1 件	評価は教員が。
京都大学以外の図書館職員	1	LC と類似の空間ができて、それぞれの特色があるのがその大学らしさ
	1	サービスの評価
	1	サービスの評価: 設計の段階で評価についてまで想定し、デザインする。
	1	設計時に評価まで想定しておくべき
	1	図書館職員は共通の文化のもと仕事をしている。図書館の新しいあり方。自信がないから「評価」が気になる
	1	評価基準は何か、満足度とは?
図書系職員以外の京都大学職員	1	自画自賛(北村先生)
その他	1	提供者による客の評価

5. その他、本講演会全般についてのご意見等

様々な立場から 1 つのテーマについての発表を聞くことができ、大変貴重な時間だった。
これから新しい図書館をプランニングしていくにあたって大変示唆を得ることができたように思います。「サービスとは闘いである」が響いています。求められるもの(だけ)を安易に作ってはいけなあと感じました。
実際にラーニングコモンズなど自学自習施設の評価に取り組んでおられる館の事例報告も伺えるとより良かったと思います。ありがとうございました。

発言は、「マイクを渡して氏名・所属を言ってから」を徹底してはいかがでしょうか。はじめに、「照明・マイク音量については、スタッフに小声でお伝えください」と伝えるなど。
大学規模の差はありますが本日の講演会で得た情報を活用させていただこうと思います
大変素晴らしい内容でした。山内先生の講演で映像が出ないのが残念
図書館のみの焦点ではなく、面白かったです。
評価について期待していたが、サービス中心であったものの、それはそれで面白かった。(実はテーマが「評価」まで及んでいるのはスゴイと思って参加しました)
評価はやっぱり難しいと感じた。
参加を決めた第一目的の前川先生のご講演がなくなったことは残念でした。体調不良とのことで仕方ないのですが、レジュメだけでもいただけて良かったです。
サービスを提供する上でブランド化と親しみやすさの矛盾は、平等やボトムアップをモットーとする図書館では何々実現が難しそうだと感じる。しかし、前者は六本木ヒルズ等が該当するか、大学、公共私立の特[判読不明]と住み分けが大事か。評価の仕方は必要性はあるのだろうか。必ずしも数値化は正しいわけでもないし、全く違った方法の模索が大事か。評価のためのモデル化はお役所的に過ぎるのでは。
時間管理をお願いします。終了が分からないと面白い話も苦痛になるのだと分かりました。
本日はありがとうございました。とても良い刺激になりました。
[前川先生について]余儀なくお越しになれなかったことについて適切な理由を一言。 / 京大附図の今回のテーマ設定は大変良かった！
ラーニングコモンズの評価とは
スライドの細かい部分はやはり見るができないので、手元にスライドのプリントがあると便利だと思います。

6. 今後、講演会で採り上げてほしいテーマ等（4件）

- ・ 図書館におけるグローバル化への対応
- ・ 大学全体における図書館の役割や評価
- ・ 研究者支援について
- ・ 電子ジャーナル等電子資料の共同目録整備における課題

(いずれも「京都大学以外の図書館職員」から。)